

市民協働事業 相互評価シート

1 市民協働事業の概要

事業名称	令和7年度にしく市民活動支援センター運営事業	
事業の実施者	団体等	特定非営利活動法人市民セクターよこはま
	行政	西区役所 地域振興課
事業の目的	市民公益活動、生涯学習活動及びボランティア活動の支援を通して、市民の理解と参画のもとに、区民力の向上による豊かな地域づくりを図ること。	
事業の内容	市民公益活動に関する相談対応、情報提供・発信、活動の場（軽易な打合せスペース等）の提供、地域人材ボランティアバンク事業に関すること、区民利用施設等との連携による活動支援や団体運営の支援など	
役割及び責任 分担等	次頁のとおり	
実施期間	令和7年4月1日～令和8年3月31日	

記入日	令和8年6月17日
記入者	[団体等] ・団体等名： 特定非営利活動法人 市民セクターよこはま ・記入責任者 氏名： 山田 美智子 連絡先： 045-620-6624
	[行政] ・部署名： 西区役所地域振興課 ・記入責任者 地域振興課長 氏名： 田中 省吾 連絡先： 045-320-8393

役割及び責任分担等

事業項目	受託者の役割	委託者の役割
にしく市民活動支援センターの管理運営に関すること	1 設備の管理 2 軽微な維持修繕	1 設備の提供 2 設備の管理に関する調整及び協力
にしく市民活動支援センター事業に関すること	1 市民公益活動等のネットワーク化 2 市民公益活動等の相談対応 3 市民公益活動等に関する情報提供・発信 4 市民公益活動等に関する活動の場の提供 5 地域人材ボランティアバンク事業の実施 6 区民利用施設等との連携による活動支援 7 自主企画事業の企画・実施 (1) 地域振興課と連携したワークショップの企画、準備、実施及び成果報告 (2) ワークショップ参加者による団体結成の促進 8 事業全体の工程表の作成・提出 9 その他市民公益活動に関する企画及び実施・活動支援	1 市民公益活動等のネットワーク化についての調整及び協力 2 市民公益活動等の相談対応についての調整及び協力 3 市民公益活動等に関する情報提供・発信についての調整及び協力 4 市民公益活動等に関する活動の場の提供についての調整及び協力 5 地域人材ボランティアバンク事業の実施についての調整及び協力 6 区民利用施設等との連携による活動支援についての調整及び協力 7 自主企画事業の企画・実施についての調整及び協力 8 事業全体の工程についての調整及び協力 9 その他市民公益活動に関する企画及び実施・活動支援についての調整及び協力
運営事業評議会の実施	運営事業評議会の開催	運営事業評議会の開催についての調整及び協力
事業改善に関すること	1 利用者のニーズ把握とサービス向上 2 運営事業団体として必要になる事業の検証 3 横浜市として必要になる事業の検証への協力	1 利用者のニーズ把握とサービス向上についての調整及び協力 2 運営事業団体として必要になる事業の検証への協力 3 横浜市として必要になる事業の検証
その他支援センターの管理運営等にあたり必要となる事務事業に関すること	1 利用統計 2 運営事業団体として必要となる情報公開及び説明責任に関する業務 3 支援センターの管理運営及び市民力の向上等に関する調査研究 4 その他、区が行う市民公益活動等に関する施策・事業への協力	1 利用統計についての調整及び協力 2 横浜市として必要になる情報公開及び説明責任に関する業務 3 支援センターの管理運営及び市民力の向上等に関する調査研究についての調整及び協力 4 横浜市役所内部の連絡調整

2 事業実施プロセス相互チェックシート

このチェックシートは、事業実施に伴う、それぞれの段階で、必要なことができたかどうか、相互にチェックをおこなうシートです。相互の視点からチェックを行い、その後、「2 事業評価相互検証シート」で総合的な評価検証をおこないます。

◎相互チェックシートの評価基準

よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	まったくできなかった
A	B	C	D

①事業計画段階

		団体等	行政
1	自分たちが達成すべき大きな目的やミッションについてよく話し合うことができましたか。	A	B
2	お互いの立場や組織の違いを話し合ってよく理解することができましたか。	A	A
3	ニーズを把握して共有するとともに、この事業の目標と実施方法を話し合って決めることができましたか。	B	B
4	実現のためにそれぞれが何をできるかを考え、話し合って役割分担を決めることができましたか。	A	A
5	会計のルール等、お互いの組織内部の取り決めについて、説明し合ってよく理解することができましたか。	A	A
6	事業を始めることや計画中であることを、ホームページや会報等を使って市民に発信することができましたか。	A	A

②事業実施段階

		団体等	行政
1	率直な意見交換のもとに、お互い対等な立場で事業をすすめることができましたか。	A	A
2	お互いの強みや得意分野を、どう生かし合えるかを考え、提案しながら取り組むことができましたか。	A	A
3	相手に任せっきりにせず、お互いが役割を自覚して積極的に取り組むことができましたか。	A	A
4	事業の進捗に応じて、目標、ニーズ、対象、実施方法などをふりかえり、修正しながら取り組むことができましたか。	A	B
5	必要に応じ、関連する他の部署や団体などを巻き込みながら事業をすすめることができましたか。	A	A
6	事業終了後の見通しについて、話しながら取り組むことができましたか。	B	A
7	事業の進捗状況を、ホームページや会報等を使って市民に発信することができましたか。	A	A

③ふりかえり段階

		団体等	行政
1	協働することで、単独でおこなうのに比べてどのような効果が得られたか、話し合って共有できたか。	A	A
2	受益者が満足を得られたかどうかについて、話し合って確認することができたか。	B	B
3	これまでも振り返って、お互いの考えに相違点がなかったかについて話し合い、確認する事ができたか。	B	B
4	期待された事業成果を得られることができたか。	A	A

3 事業評価相互検証シート

事業実施プロセス相互チェックシートでおこなった結果をもとに、相互で本検証シートを作成します。

事業の計画づくり (協働して事業計画をつくるにあたり、お互いに共有できたことや認識に違いがあったこと、今後、改善が必要と思われることはどのようなものですか。)
【共有できたことや認識に違いがあったこと】 ＜共有できたこと＞ ・西区今昔かるた関連事業等、企画段階から双方で情報共有・意見交換を行い、事業目的や手法について一定の共通認識を持って進めることができた。 ・アクションプラン（R6 策定）取組共有会を通じ、センターの役割や目指す姿について双方で整理・確認する機会を持つことができた。 ・令和7年度から新たに開始した「地域活動訪問レポート」の取材・記事作成においては、取材先となる地域活動団体との調整や連絡を円滑に行い、地域とのつながりの構築に繋げることができた。 ＜認識に違いがあったこと＞ ・センター主催の各事業・取組において、計画段階における協働の目的や効果の整理が十分とは言えず、事業ごとに認識の深度に差がある状況がみられた。
【今後改善が必要と思われること】 ・区・センター双方の主催・共催事業において、計画策定段階から協働の意義（役割分担・期待される効果）を議論の上、確認しあうことが必要である。 ・各地区の地域課題に対応した取組について、より具体的に検討・共有する仕組みづくりが必要である。
事業実施 (協働して事業を実施した結果、お互いに共有できたことや認識に違いがあったこと、今後、改善が必要と思われることはどのようなものですか。)
【共有できたことや認識に違いがあったこと】 ＜共有できたこと＞ ・毎月実施している定例会議を活用し、利用者情報や地域活動の状況、事業進捗について継続的に共有し、必要に応じて事業内容を調整することができた。 ・各地区における取組への関わりを通じて、関係する担当や地域との情報共有・連携を図り、地域課題の把握ができた。 ＜認識に違いがあったこと＞ ・特になし
【今後改善が必要と思われること】 ・区とセンターが連携しながら積極的に情報発信するなど、センターの役割や機能について、認知度を向上させることで、より相談しやすい環境づくりを目指す必要がある。 ・センターとの関係性が十分でない地域活動や社会資源に対して、区が加わることでより、協働の広がりを生み出すことも行っていく必要がある。 ・区役所内にセンターがある特徴をより活かすため、区役所内でもセンターの機能を把握し、更なる連携を促進する取組を行うことが求められる。
事業の成果

(協働して事業を実施した結果、当初期待された事業効果がどのような成果となりましたか。) ・「西区今昔かるたフェスティバル」の実施により、地域資源への関心を高め、区への愛着醸成につなげることができた。 ・「地域活動訪問レポート」の取組により、地域活動の可視化と情報発信の充実、並びにセンターの認知向上につながった。 ・センター・地域振興課・区政推進課の連携により、地縁組織との関係構築を進展させることができた。 ・NPO 法人の柔軟性を活かした運営により、地域の実情に応じた機動的な対応が可能となり、協働の価値を発揮することができた。
自由記入欄
・定例会に加え、必要に応じた柔軟な協議の場を設けることで、双方の強みをより有効に発揮できる運営体制の構築が重要である。